



2018 年次報告書

公益財団法人 JFE21世紀財団
JFE 21st Century Foundation

公益財団法人 JFE21世紀財団

JFE 21st Century Foundation

(沿革)

1990年12月 川鉄21世紀財団設立（旧川崎製鉄㈱が、創立40周年を記念して設立）

2003年4月 JFEグループ発足に伴い、JFE21世紀財団に改称

2012年4月 公益財団法人へ移行

(設立の目的)

この法人は、21世紀における創造的発展をめざす鉄鋼産業及び関連産業（以下「21世紀鉄鋼産業」という。）に資する調査・研究、国内外の21世紀鉄鋼産業に関連する地域の発展・国際交流に資する事業等を行うことにより、産業と社会・文化の調和あるパラダイムの構築をはかり、もって21世紀鉄鋼産業の振興及び豊かな生活文化の形成に貢献することを目的とする。

(事業内容)

1. 大学研究助成等事業：
 - (1) 技術研究助成（公募）
 - (2) アジア歴史研究助成（公募）
 - (3) 大学教材・鉄鋼関連出版物の作成・寄贈
2. 文化振興事業：
 - (1) 鉄鋼に縁のある地域への貢献
 - (2) 海外子女文芸作品コンクールへの協賛と文集の寄贈

2018年度年次報告書 目次

| | |
|----------------------------|-------------------|
| 2018年度 年次報告書の刊行にあたって | 1 |
| 2018（平成30）年度事業 | 2 |
| Ⅰ. 大学研究助成事業 | 4 |
| 技術研究助成 | 2018年度 助成金交付研究 6 |
| アジア歴史研究助成 | 2018年度 助成金交付研究 10 |
| Ⅱ. 文化振興事業 | |
| (1) 鉄鋼に縁のある地域への貢献 | |
| ・ふれあい祭り（川崎市） | 12 |
| ・MUZA ランチタイム&ナイトコンサート（川崎市） | 12 |
| ・趙治勲杯囲碁大会（千葉市） | 13 |
| ・千葉交響楽団 | 13 |
| ・国際音楽の日コンサート・千葉市民音楽祭・第九演奏会 | 14 |
| ・千葉県少年少女囲碁大会 | 14 |
| ・倉敷音楽祭 | 15 |
| ・白壁倉敷将棋フェスタ | 15 |
| ・福山ばら祭 | 16 |
| ・芸能大全～まつりの世界～（福山市） | 16 |
| ・はんだふれあい産業まつり | 17 |
| ・三重県高等学校ロボット競技大会 | 17 |
| ・トンボはドコまで飛ぶかフォーラム（横浜市） | 17 |
| ・嘉興市浪漫桜祭り（中国・浙江省） | 18 |
| (2) 「海外子女文芸作品コンクール」協賛と文集寄贈 | 18 |
| Ⅲ. 出版事業 | 19 |
| 財務データ（2018年度） | 20 |
| 評議員・役員名簿 | 21 |

ご挨拶：2018年度 年次報告書の刊行にあたって

2018年度 年次報告書の刊行にあたりご挨拶申し上げます。

JFE21世紀財団は、1990年に現在のJFEグループ各社の出捐によって設立されて以来、大学研究助成を始めとする公益目的事業に専念し、活動を進めてまいりました。私はこの度理事長に就任いたしました。当財団の公益事業を更に充実・発展させて行くことを通じて、社会貢献の一翼を担うべく努力いたす所存でございます。引き続きご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします。

さて、2018年度の当財団の事業につきましては、好調な収益に支えられ、順調に各事業を進めることができました。

まず、当財団の最重要の事業であります「大学研究助成事業」につきまして、「技術研究助成」は194件の応募に対して26件（鉄鋼技術13件、地球環境・地球温暖化防止技術13件）、「アジア歴史研究助成」は70件の応募に対して11件の助成対象者を厳正な審査を経て決定し、2018年12月に総額6,850万円の助成金を交付いたしました。今後とも、この「大学研究助成事業」を継続・発展させ、日本の科学技術と人文科学の両分野における学術振興のお役に立ちたいと考えております。

また、もう一つの公益事業である「文化振興事業」につきましては、例年同様、鉄鋼に縁のある地域への貢献として、地域イベントへの協賛、また「海外子女文芸作品コンクール」への協賛等を行い、地域や教育の活性化に役立てて頂きました。

大学教材等の出版・寄贈事業につきましては、1月に「鉄鋼工学改訂版（プロセス編・材料編）」を刊行いたしました。本書は、2006年度に初版を刊行し長く鉄鋼研究者に活用されてきたものですが、12年振りに最新の鉄鋼技術を紹介すべく改訂を行い、全国の材料系学科のある大学と研究者に約1000部寄贈いたしました。引き続きこの事業においても皆様方のお役に立てますよう精進を重ねて参りたいと存じます。

『社会に開かれた存在を目指し、社会との共存共栄をいっそう進める』を設立趣旨とする当財団は、社会貢献の一端を担う公益事業を、これからも一層推進して参ります。皆様には更なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



公益財団法人 JFE21世紀財団
理事長 柿木 厚司

I. 大学研究助成事業

公益財団法人 JFE21世紀財団の最重要事業である「大学研究助成」は、財団設立以来継続している「技術研究助成」と2005年度に開始した「アジア歴史研究助成」から構成される。

2018年度は4月23日より公募を開始し、公募案内と募集要項を、技術研究助成では理工学系学部・大学院・附属研究所・国公立研究機関に、アジア歴史研究助成では人文社会科学系学部・大学院・附属研究所・国公立研究機関に送付した。

申請の受付は、財団 HP から事務局に応募申請書を送信する形式で行われている。

6月22日に応募受付を締切ったところ、技術研究が87の大学・国公立研究機関等から194件、アジア歴史研究は54の大学・国公立研究機関等から70件の申請を受け付けた。両研究助成とも、7～8月に各審査委員による申請書査読を経て、技術研究は9月4日に審査委員会を開催し、助成研究26件（内 鉄鋼13件、地球環境・地球温暖化防止13件）を、アジア歴史研究は9月7日に審査委員会を開催し、助成研究11件を推挙した。ともに財団理事長の承認を得て、9月28日に対外発表した。

助成金贈呈式は、12月5日に助成金受領者35名の出席を得て、列席者総数約110名で盛大に催された。林田英治理事長の挨拶、曾谷保博技術研究助成審査委員長ならびに梅村坦アジア歴史研究助成審査委員長の審査報告を経て、理事長から受領者に研究助成金贈呈書を手渡した。贈呈式の後、山口光恒地球環境産業技術研究機構（RITE）参与による「長期ネット CO₂ ゼロ排出に向けて一温暖化『パリ協定』の課題一」と題する記念講演を行った。昼食を兼ねた懇親会は、柿木厚司評議員の挨拶と乾杯の発声で始まり、研究助成受領者を囲んで賑やかに執り行われた。



林田理事長の挨拶



曾谷技術研究助成審査委員長の審査報告



梅村アジア歴史研究助成審査委員長の審査報告



助成金贈呈書の授与



技術研究助成受領者（鉄鋼技術研究）



技術研究助成受領者（地球環境・地球温暖化防止技術研究）



アジア歴史研究助成受領者



山口 RITE 参与記念講演



柿木評議員懇親会挨拶



懇親会風景

記念講演「長期ネット CO₂ゼロ排出に向けて一温暖化『パリ協定』の課題一」

山口光恒氏は、1939年神奈川県のご出身、慶應義塾大学ご卒業後、東京海上火災保険(株)理事を経て、慶應義塾大学経済学部教授、東京大学特任教授等を歴任、2012年4月から(公財)地球環境産業技術研究機構参与。その間、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第4次報告書・第5次報告書で第3作業部会報告のリードオーサーを務められた。

記念講演では、まず地球温暖化問題の本質について、温室効果ガス (GHG) 濃度と気温上昇との関係 (気候感度) を始めとする「不確実性」の下で、膨大な削減コストを世代間・国家間等でどのように衡平に負担するのかの「リスクマネジメント」であり、経済の持続可能性と両立すべきと述べられた。続いて、パリ協定の問題点につき、「気温上昇2℃未満」目標は各国の削減目標引上げが必要だが政治的に困難、「今世紀中に GHG ネットゼロ排出」目標も膨大な CO₂地中貯留が前提で実現困難であり、最近の「1.5℃目標」については急激過ぎて達成は不可能と述べられた。従来の温暖化対策の枠組みでは、経済的な費用便益分析が欠けており、様々な対策のリスクを明示してリスク・リスク・トレードオフの比較を行うべきと述べられた上で、日本の戦略として、長期的にはパリ協定の気温目標に代わる「CO₂ゼロ排出」という分かりやすい目標の提示とその為の技術開発を示された。最後に日本の鉄鋼業界が長期的に取組む水素直接還元等の技術開発への期待を述べられ、ご講演を締め括られた。

技術研究助成

今年度は下記の募集要項で4月23日から6月22日の間、応募を受け付けた。

助成（原則） 総額5,000万円（1件200万円を25件に交付）

対象者 日本の国公立大学・公的研究機関に所属する研究者（国籍不問）

対象研究 鉄鋼技術研究： 鉄鋼材料、製造プロセス、鉄鋼副産物を対象とする基礎／応用研究。計測・制御・分析・計算科学・数値解析等で鉄鋼を対象とする関連技術や生産技術の研究を含む。

地球環境・地球温暖化防止技術研究： 地球環境保全と地球温暖化防止を目的とした技術開発を対象とするエンジニアリング（工学）に関する基礎、応用技術の研究。

研究期間 原則1年（研究状況等の変化に応じて2年までの延長は可）

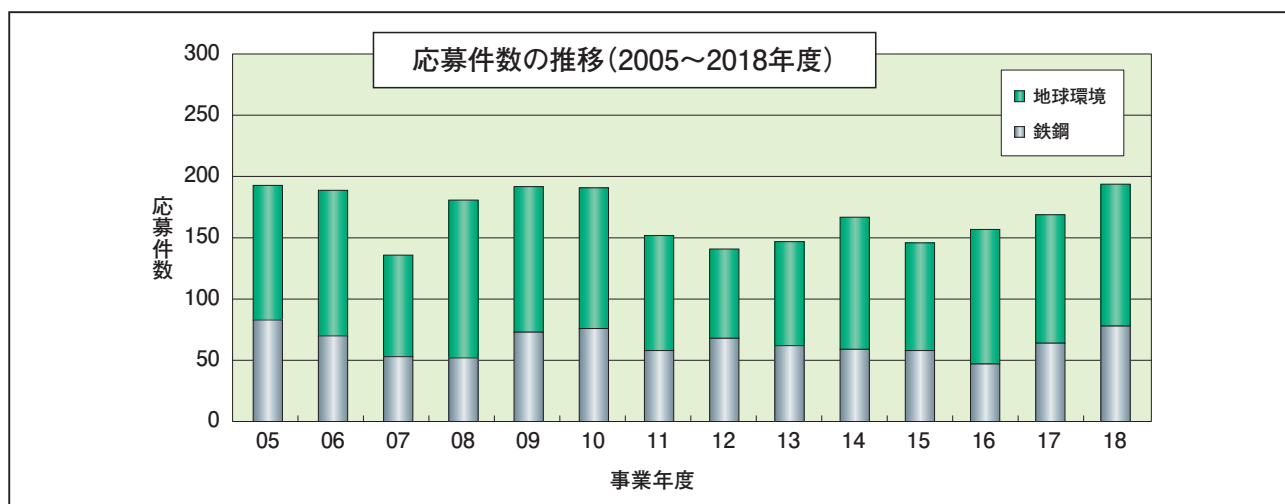
応募総数194件（内訳：鉄鋼78件、地球環境・地球温暖化防止116件）は、昨年度より25件増であった。

* 大学別応募数：国公立52大学142件、私立22大学30件、高専6校9件、研究機関7機関13件

審査 曾谷保博 審査委員長（JFE スチール副社長）を始めとする大学教授及びエンジニア等の専門家13名から成る審査委員会が、「鉄鋼技術研究」13件、「地球環境・地球温暖化防止技術研究」13件、合計26件を選考・採択し、理事長の承認を得て2018年度助成研究となった。選考された研究は基礎研究に類するものから早期の実用化を目指すものまで多様である。また学術的・工業的に高い評価を受け、社会的貢献が大いに期待されている研究である。

【研究テーマ分類別・助成と応募件数】

| | | 助成 | 応募 | 教授 | 准教授 | 助教 | 他 | 応募（17年度） |
|----|---------|----|-----|----|-----|----|----|----------|
| 鉄鋼 | 製造プロセス | 4 | 13 | 4 | 5 | 4 | 0 | 12 |
| | 材料 | 5 | 26 | 13 | 8 | 3 | 2 | 29 |
| | 関連技術 | 4 | 39 | 12 | 13 | 7 | 7 | 23 |
| | 計 | 13 | 78 | 29 | 26 | 14 | 9 | 64 |
| 環境 | 地球環境保全 | 7 | 50 | 17 | 14 | 7 | 12 | 32 |
| | 地球温暖化防止 | 6 | 66 | 15 | 25 | 20 | 6 | 73 |
| | 計 | 13 | 116 | 32 | 39 | 27 | 18 | 105 |
| 合計 | | 26 | 194 | 61 | 65 | 41 | 27 | 169 |



2018年度 助成金交付研究

【鉄鋼技術研究】 (1/2)

| 研究者 | 研究テーマ |
|--|---|
| 産業技術短期大学機械工学科 浅尾 慎一 講師 他1名 | 溶鋼内の介在物移動及び気泡運動に対する埋め込み格子法の発展と応用 「移動埋め込み格子法」という手法を用いて溶鋼内の非金属介在物移動及び気泡運動の挙動を正確に評価し、介在物移動及び残留気泡の様子を調査する。 |
| 日本工業大学基幹工学部 応用化学科 内田 祐一 教授 | 製鋼用マンガン合金の低リン化限界に関する研究 低リン濃度のフェロマンガン合金の溶製の検討に必要な熱力学データを整備・獲得し、種々の精錬手段における低リン化限界を評価する。さらに、高濃度マンガン溶湯からの新規な脱リン方法を実験的に試みる。 |
| 兵庫県立大学大学院工学研究科 材料・放射光工学専攻 岡井 大祐 助教 他1名 | 純鉄における Cube 方位結晶粒の二次再結晶機構の解明 二方向性珪素鋼板の結晶配向制御では、Cube 方位粒の二次再結晶が用いられている。Cube 方位二次再結晶の精密制御の知見を得るために、純鉄での Cube 方位粒の二次再結晶メカニズムを解明する。 |
| 名古屋大学 未来材料・システム研究所 興戸 正純 教授 他1名 | ステンレス鋼の表面改質による生体適合性向上 ステンレス鋼の表面を改質し、親水性、タンパク質吸着性、金属イオンの溶出性、新生骨接着性を生体内・外の試験から明らかにする。これまでのチタン合金の成果と照らし合わせ、より高い生体活性を目指す。 |
| 大阪市立大学大学院工学研究科 機械物理系専攻 兼子 佳久 教授 | 転位組織の ECCI 観察と EBSD 解析による新しい疲労破壊解析 応力集中によりき裂先端から放出された転位は、疲労負荷により自己組織化するとともに結晶格子の回転ももたらす。本課題では、疲労破面近傍におけるそれらの発達を最新の走査電子顕微鏡法で調査する。 |
| 東京理科大学基礎工学部 材料工学科 小嗣 真人 准教授 他1名 | レアメタルフリー高機能磁性材料 L1 ₀ 型 FeCo の応用研究 本研究ではレアメタルフリーかつ高効率エネルギー創出が可能な磁性材料 L1 ₀ -FeCo の応用研究を行う。薄膜創成・バルク化技術・放射光解析の連携研究を行うことで、L1 ₀ -FeCo 創製のコア技術を確立する。 |
| 秋田大学大学院理工学研究科 物質科学専攻 後藤 育壮 助教 他3名 | 凝固形態及び温度勾配の最適制御による鉄基マイクロポーラス材料の as-cast 製造 マッシー度を意図的に高くする合金設計や、温度勾配を小さくする凝固プロセスにより、鑄造欠陥の発生挙動を制御することで、マイクロポロシティ（多孔質巣）が全体的に分散した鉄基合金の製造を目指す。 |
| 九州大学大学院工学研究院 機械工学部門 高桑 脩 准教授 | ニッケル基超合金の水素誘起割れ発生・成長メカニズム ニッケル基超合金は高強度であり耐熱性、耐食性を兼ね備える優れた材料である一方で水素の影響を強く受ける（水素脆化）。本研究では水素による力学特性ならびに破壊起点・進展パスの変化を明らかにする。 |
| 京都大学大学院工学研究科 材料工学専攻 野瀬 嘉太郎 准教授 他3名 | 製鉄廃熱の有効利用に向けた熱輻射電池の開発 本研究では、鉄鋼産業における廃熱を電気エネルギーとして有効利用するために、従来の熱発電ではなく、高温物体から出る輻射光を直接光電変換する熱光起電力発電の構築に向けた熱輻射電池の開発を目指す。 |

2018年度 助成金交付研究

【鉄鋼技術研究】 (2/2)

| 研究者 | 研究テーマ |
|---|---|
| 北海道大学大学院工学研究院 応用化学部門 幅崎 浩樹 教授 他1名 | 高効率水電解を可能とする高活性鉄鋼材料電極表面の構築 アルカリ水電解により高効率で水素を製造するための高活性な酸素発生電極を鉄鋼材料のアノード酸化により創製する。貴金属フリーで高表面積、高活性、高耐久性の電極を目指す。 |
| 東北大学多元物質科学研究所 福山 博之 教授 他1名 | 放射率フリー温度計測による先端熱物性計測技術の開発 本研究では、放射率を必要としない非接触温度計測技術（2波長反射率比法）を電磁浮遊した熔融金属に適用するための技術開発を行う。これにより、高温融体の“完全非接触”な熱物性測定が可能となる。 |
| 富山県立大学 工学部電子・情報工学科 八尾 惇 助教 他1名 | 高温インバータ励磁下の電磁鋼板の特性評価及び設計指針の創生 本研究では、超低損失、高効率な高温モータドライブシステムを実現するための基礎検討として、インバータ（直流交流変換器）励磁下の高温磁性材料の特性評価を行い、電磁鋼板の設計指針を検討する。 |
| 九州大学大学院工学研究院 機械工学部門 渡邊 裕章 准教授 | コークス強度劣化評価のためのレースウェイ固気二相反応流数値解析法の開発 コークス強度劣化評価法の確立に向けて、高炉羽口前レースウェイ内における微粉炭とコークスの競合反応場を対象とする数値解析法を開発し、レースウェイ形成過程ならびにコークス粉化特性を予測する手法を確立する。 |

【地球環境・地球温暖化防止技術研究】 (1/2)

| 研究者 | 研究テーマ |
|---------------------------------------|---|
| 名古屋大学 未来材料・システム研究所 片山 新太 教授 他2名 | 生物窒素固定を促進する細胞外電子伝達を担う固体腐植様物質の構造解明 固体腐植物質およびその類似物質は、細胞外電子伝達物質として嫌気性非共生的窒素固定菌の窒素固定など多くの還元反応を高活性化する。本研究では、この細胞外電子を将来担う固体腐植様物質の化学構造を解明する。 |
| 広島修道大学人間環境学部 川村 邦男 教授 他2名 | バイオマス資源としての木綿廃棄物の化学リサイクル法の開発 本課題では、熱水処理技術と古典的分離法を組合せ、木綿繊維製品廃棄物からのヒドロキシメチルフルフラール（HMF）生成法を開発し、廃棄物削減と石油にかわる化学合成プラットフォームの構築を目指す。 |
| 九州大学大学院工学研究院 環境社会部門 久場 隆広 教授 | 安価で高効率なセシウム吸着剤としての賦活化竹炭・木炭・汚泥溶融スラグの開発 セシウムを吸着除去した賦活化竹炭・木炭を焼却処理することで、最終処分される放射性廃棄物の減容化を目指す。また、ゼオライトを表面に形成させることで、セシウム吸着能の高い下水汚泥溶融スラグを開発する。 |
| 工学院大学工学部機械工学科 小林 潤 准教授 他1名 | 電磁波を利用した使用済み CFRP からの炭素繊維の分離技術の開発 使用済み炭素繊維強化プラスチック（CFRP）のリサイクル方法の確立を目的とし、高周波誘導加熱技術を応用した炭素繊維・樹脂接着界面の選択的加熱・熱分解による炭素繊維分離回収技術の開発を試みる。 |

【地球環境・地球温暖化防止技術研究】(2/2)

| 研究者 | 研究テーマ |
|---|---|
| 岐阜大学大学院工学研究科 機械システム工学専攻 小林 信介 准教授 | ケークレス型巡回式クロスフローを用いた切削排液の油水分離 水とともに複数種の切削油や界面活性剤、微粒切削くずが混合する切削排液から水、油、粒子の高効率同時分離が可能なケークレス型巡回式クロスフローエマルジョン分離技術の開発を行う。 |
| 宇都宮大学大学院工学研究科 物質環境化学専攻 佐藤 剛史 准教授 他1名 | 高压水熱反応による蛇紋岩への二酸化炭素高速固定化法の開発 水熱反応場では無機物の水への溶解度が高いため各種無機反応が進行しやすい。天然に広く分布する蛇紋岩とCO ₂ を高压水熱条件で反応させ、無機材料のMgCO ₃ を合成するCO ₂ 固定化手法を開発する。 |
| 東京大学物性研究所 高橋 竜太 助教 | 新奇ナノ構造を用いた水分解光電極による水素合成の高効率化 水素を製造する方法として、水分解光電極が注目を浴びている。本研究ではパルスレーザー堆積法を利用し、ナノ構造を自己組織化することによって、水分解光電極の高効率化を目指した研究に取り組む。 |
| 近畿大学理工学部応用化学科 田中 淳皓 助教 他2名 | 太陽光照射下、プラズモニック光触媒を用いた廃棄バイオマスからの水素生成反応 本研究では、バイオマス系廃棄物の脱水素反応により水素を生成させる。これは光触媒を用いた水の分解反応に比べ、熱力学的に格段に有利である。加えて、バイオマス系廃棄物処理も同時に実施できるという側面がある。 |
| 中央大学理工学部応用化学科 田中 秀樹 教授 他3名 | 再生利用可能な純銅ナノ粒子の環境触媒への展開 環境調和性の高い光還元法を用いて純銅ナノ粒子を合成し環境触媒への展開を目指す。また光再生反応によって触媒の再生を行うと同時に系中の有害イオンの除去についてもあわせて検証する。 |
| 香川大学創造工学部創造工学科 馮 旗 教授 | 福島原発事故放射能汚染水処理用高性能Sr ²⁺ 選択吸着剤の開発 細孔径を制御した層状構造およびトンネル構造を有するマンガン酸化物のイオンふるい効果を利用して、放射性Sr ²⁺ イオンを選択的に吸着する高選択性低コスト吸着剤を開発し、福島原発事故放射能汚染水処理に利用する。 |
| 室蘭工業大学大学院工学研究科 もの創造系領域 平井 伸治 教授 他1名 | 環境汚染の抑制に寄与する高機能構造蛋白質樹脂の開発 マイクロプラスチックによる環境汚染の抑制のため、生分解性の羊毛等を樹脂化し、特性がエンプラと同等の蛋白質樹脂を開発する。原料が古着等で、またバイオマスなので、合成ポリマーと違いCO ₂ 抑制も期待される。 |
| 九州工業大学大学院 生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻 宮崎 敏樹 教授 他1名 | 新規バイオプロセスにより炭酸から高効率でメタンを生み出す メタン生成菌は、炭酸ガスから代謝によりメタンガスを産生できる。その活性を最大限に向上させて、新規クリーンエネルギー産生プロセスを確立するため、細菌と炭酸ガスの双方の吸着性に優れた多孔質材料を作製する。 |
| 千葉大学大学院工学研究院 山崎 泰広 准教授 | ナノ組織制御による革新的遮熱コーティングの開発 再生エネルギーの利用拡大に資するため、電力系統安定化対応ガスタービン用の革新的遮熱コーティングシステムの開発と、急速起動・高出力変動条件下の使用を想定した寿命・余寿命予測技術の確立を目指す。 |

アジア歴史研究助成

今年度は下記の募集要項で4月23日から6月22日の間、応募を受け付けた。

- 助成（原則）** 総額1,500万円（1件150万円を10件に交付）
- 対象者** 日本の国公立大学・公的研究機関に所属する研究者（国籍不問）
- 対象研究** 「アジアの歴史を対象とし、21世紀アジアと共存・共栄するための、日本の産業と文化の Vision 構築に資する研究」
 アジアの各地域はいずれもきわめて複雑な歴史をたどってきた。その結果として今日の政治、経済、社会、文化状況がある。本研究助成は、歴史的経緯を踏まえながら現況を直視し、未来を考える研究を対象とする。また、アジア各地域と日本の関係についての歴史と記憶の研究も含む。
- 研究期間** 原則1年（研究状況等の変化に応じて2年までの延長は可）

応募総数70件は、昨年度より5件減であった。

* 大学別応募数：国公立25大学39件、私立25大学27件、高専2校2件、研究機関2機関2件

審査 下記の4名から成る審査委員会が、査読審査、委員会での協議を経て11件を選考・採択し、理事長の承認を得て2018年度の助成研究となった。

委員長 梅村 坦（中央大学名誉教授）、委員 菊池秀明（国際基督教大学教養学部教授）、澁谷鎮明（中部大学国際関係学部教授）、保坂俊司（中央大学総合政策学部教授）

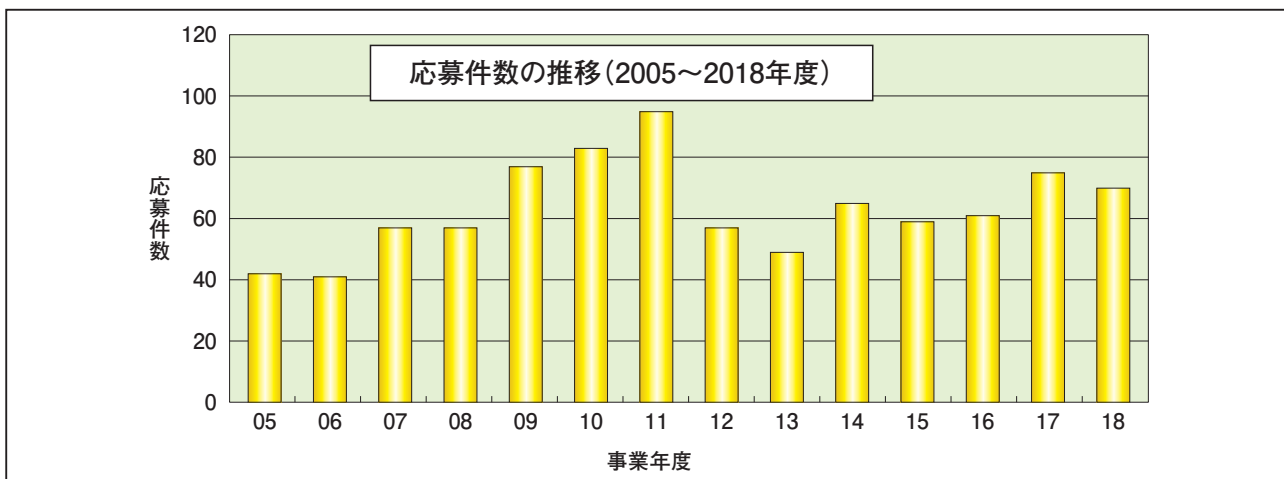
アジア歴史研究シンポジウムの開催

11月4日、中央大学において、同大学政策文化総合研究所との共催でシンポジウムを開催した。2017年度助成研究の成果につき7名の研究者が講演し質疑応答や意見交換を行った。一般市民を含め約30名の参加を得て研究助成の成果を広く社会に還元する機会となった。

【応募研究テーマの分類】

助成対象件数（応募件数）

| | アジア全般 | 西アジア・中央アジア | 南アジア | 東南アジア | 北東アジア (ロシア・モンゴル) | 中国 | 朝鮮半島 | 東アジア全般 (日中韓) | 計 |
|-------------|-------|------------|-------|--------|---------------------|--------|--------|-----------------|---------|
| 政治・法律 | | 1 (2) | 1 (2) | (1) | | 2 (5) | (2) | (1) | 4 (13) |
| 国際関係 | 1 (2) | | | (3) | | 1 (3) | (3) | (1) | 2 (12) |
| 経済・通商 | | | | (1) | (1) | | | | 0 (2) |
| 農業・産業 | | | | (1) | | (2) | | 1 (1) | 1 (4) |
| 社会・生活・宗教 | 1 (2) | (1) | (1) | (4) | | 3 (9) | (4) | (3) | 4 (24) |
| 文化・文学・芸術・建築 | (1) | | | (2) | (1) | (5) | (3) | (1) | 0 (13) |
| 計 | 2 (5) | 1 (3) | 1 (3) | 0 (12) | 0 (2) | 6 (24) | 0 (12) | 1 (7) | 11 (68) |
| 助成要件外 | | | (1) | | | | | (1) | 0 (2) |
| 再計 | 2 (5) | 1 (3) | 1 (4) | 0 (12) | 0 (2) | 6 (24) | 0 (12) | 1 (8) | 11 (70) |



2018年度 助成金交付研究

【アジア歴史研究】

| 研究者 | 研究テーマ |
|---|--|
| 下関市立大学経済学部 国際商学科 飯塚 靖 教授 | 戦後中国長期残留者の軌跡と記憶 戦後中国で技術者・労働者等として「留用」(徴用)され、長期残留を余儀なくされた人々について、未刊行史料(「中共事情」)や聞き取り調査、及び現地追跡調査により、中国での波乱に満ちたその軌跡を解明する。 |
| 東洋大学法学部法律学科 上田 知亮 准教授 他3名 | 近現代インドの権利形成史：司法積極主義と社会運動に着目して インドの自由民主主義体制が1947年の独立以来ほぼ一貫して持続してきた要因は、自由主義的な司法機関の積極主義と参加民主主義的な社会運動によって様々な権利が形成されてきた歴史にあることを明らかにする。 |
| 東北大学大学院国際文化研究科 大河原 知樹 教授 他1名 | 「イスラーム的価値観」にもとづく民法、民事訴訟法の研究 本研究は、シャリーアをその核とする「イスラーム的価値観」にもとづく民事訴訟制度が、前近代から近代にかけてどのように形成され、変化してきたのかを、法学書、法令、裁判記録をもちいて研究する。 |
| 京都大学大学院人間・環境学研究科 太田 出 教授 他3名 | 近現代東アジア漁業と海洋資源 ——日中韓台の歴史・現在・未来—— 近代東アジアの海洋世界(日本・中国・韓国・台湾)において領海主権概念がいかに受容され、海洋資源の確保・分配をめぐる矛盾・衝突はいかなる努力によって解決されてきたかを、未来を見据えながら明らかにする。 |
| 香川大学経済学部 緒方 宏海 准教授 | 日本における媽祖信仰の受容と船霊信仰に関する歴史人類学的研究 本研究の目的は、歴史人類学の視点から香川県を中心とする瀬戸内地方において、媽祖信仰の伝来の歴史と、他地域と比較してどのような信仰の特徴があるのか、その信仰の実態について明らかにすることである。 |
| 佐賀大学教育研究院 人文・社会科学域経済学系 児玉 弘 准教授 他3名 | 台湾における“脱原発”の政治・行政・司法過程 福島第一原発事故を目の当たりにした台湾が2025年までの“脱原発”を「決定」した過程について、政治・行政・司法過程それぞれにおける議論の状況を明らかにするとともに、その「決定」に内在する法的諸問題を検討する。 |
| 立命館大学 立命館アジア・日本研究機構 島田 大輔 専門研究員 | 日本の回教政策における戦前・戦後期の連続と断絶 ——米国冷戦政策との関連性の検証を中心に—— 従来看過されてきた戦後期日本の回教政策について、主に国際モスLEM協会(1953~60年)の動向を通じて分析し、昭和戦前期、冷戦期どちらにも存在した「回教問題」とは何なのか、それが如何に変容したのかを考察する。 |
| 東北大学大学院国際文化研究科 朱 琳 准教授 他2名 | 近代日本の中国学に関する総合的研究 ——知の編成・連鎖・再生産 世代論を導入しながら近代日本の中国学の変遷過程を詳細に解明し、既存の中国研究を批判的に検討するとともに、戦前と戦後の連続と断絶、中国学の意味と問題点ないし今日の中国研究の立ち位置を再確認する。 |
| 明治学院大学教養教育センター 張 宏波 教授 他2名 | 日中相互イメージの「複雑性」を捉えるための調査研究： 相互交流の時代に求められることを展望するために 近年指摘されている日中間の相互イメージの極端な悪化は、実際には現実の複雑さを十分に捉えていないのではと考え、相互イメージや評価を形成する根拠となる事実や価値観がいかなるものなのかを浮かび上がらせる。 |
| 京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 東長 靖 教授 他3名 | スーフィズムに基づくアジア型イスラームの共生思想とその実践 本研究は、スーフィズムに基礎を置く「アジア型イスラーム」という概念を提唱し、情報を蓄積するとともに、社会に向けて発信することで、日本における未来のイスラーム・イメージの改変に貢献しようとするものである。 |
| 信州大学学術研究院(人文科学系) 豊岡 康史 准教授 他3名 | 清朝中期の構造変動と「嘉慶維新」(1796-1820) 18世紀末から19世紀初頭の時期、すなわち清朝嘉慶年間の政治改革(「嘉慶維新」)を、当時の漢人人口拡大に伴う、社会経済構造変動への対応として捉え、特にその最初期の実態を解明する。 |

Ⅱ. 文化振興事業

鉄鋼に縁のある地域への貢献

ふれあい祭り (川崎市)

5月27日にJFE 特設会場 [THINK テクノハブイノベーション川崎]で、音楽とものづくりがふれあうイベント「ふれあい祭り2018」が開催された。

《音楽・ものづくり・海・防災福祉とのふれあい》をモットーにしているお祭りである。協賛開始から13回を数え、47,000名の市民が来場した。今年も晴天に恵まれ、町内会の太鼓と神輿で賑やかにスタートした。

会場には消防、警察、海上保安庁の展示があり他にも福祉、自動車の展示もあった。例年人気の、厚板工場見学ツアー、島内一周バスツアー、扇島周辺ミニクルーズは2402名の参加があり、昨年を上回った。メインステージでは例年人気の高いアンパンマンショーをはじめ、川崎で活躍中のミュージシャンによるライブで“音楽のまち・かわさき”をアピールした。



主催 「ふれあい祭り」実行委員会

後援 「音楽のまち・かわさき」推進協議会、川崎商工会議所

協賛 (公財)JFE21世紀財団

MUZA ランチタイム&ナイトコンサート (川崎市)

川崎駅に直結しパイプオルガンで知られる「ミューザ川崎」シンフォニーホール。昨年はクラシックファンに人気の音楽誌「音楽の友」(音楽之友社)読者アンケートに於いて、“好きな演奏会場”部門第2位に選ばれた。

その冠スポンサーとして、「JFE ランチタイム&ナイトコンサート」に今年も14回目の協賛をした。

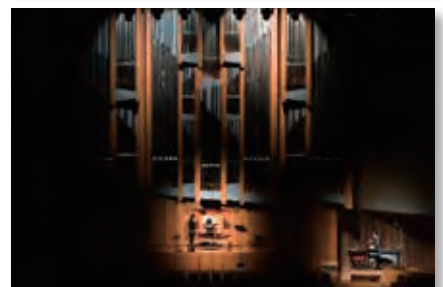
4月公演では新ホールオルガニスト就任のお披露目公演を、また10月公演ではパイプオルガンと打楽器のコラボレーションによってホールというキャンバスに物語を描く魅力的なコンサートを披露した。

4月25日 新ホールオルガニスト就任記念!

パイプオルガン：大木麻理、近藤岳

10月16日 VIVA BOLÉRO! ~音が描く物語~

パイプオルガン：勝山雅世 打楽器：前田啓太



主催 (公財)川崎市文化財団、ミューザ川崎シンフォニーホール

協賛 (公財)JFE21世紀財団

趙治勲杯囲碁大会（千葉市）

5月13日、JFE スチール東日本製鉄所（千葉地区）見学センターで「第20回趙治勲杯囲碁大会」が開催された。

一般の部は千葉市勤務、または千葉市在住者の初段程度以上を参加資格として67名が参加し、無差別の市長戦とレベル分けして対戦するハンデ戦にて対局した。緊迫した雰囲気の中でレベルの高い対戦に目を見張るものがあった。

子供大会は個人戦（チャンピオン戦・ハンデ戦）に132名が参加した。

午後の20回大会を記念した式典では、趙治勲名誉名人らによる表彰式と、特別企画として趙治勲名誉名人と門下三プロ棋士と126名の大会参加者による多面打ちを実施した。

記念品には趙治勲先生サイン入りクロス等を配布した。



主催 趙治勲杯囲碁大会実行委員会

後援 千葉市、日本棋院千葉県支部、千葉県少年少女囲碁連盟

協賛 (公財)JFE21世紀財団、JFE スチール(株)東日本製鉄所

千葉交響楽団

2017年10月より「公益財団法人千葉交響楽団」の支援会員として協賛を始めた。

同楽団は、千葉県唯一のプロオーケストラであり、前身のニューフィルハーモニーオーケストラ千葉の31年間の活動を引き継ぐ形で、2016年10月に公益財団法人千葉交響楽団に改称した。

2016年4月より、音楽監督として指揮者・山下一史氏を招聘し、熱気あふれる演奏で観客を魅了している。



5月26日 第103回 定期演奏会「ロマンへの誘いⅠ」

9月29日 第104回 定期演奏会「ロマンへの誘いⅡ」

2019年1月13日 ニューイヤーコンサート

「新春の彩り煌びやかな調べ」

主催 (公財)千葉交響楽団

共催 (公財)千葉県文化振興財団

鉄鋼に縁のある地域への貢献

国際音楽の日コンサート・千葉市民音楽祭・第九演奏会

主にクラシック音楽の普及・向上を目指して活動している千葉市内のプロ・アマの音楽家有志の団体である「千葉市音楽協会」主催の以下のコンサートに協賛した。

「第23回国際音楽の日コンサート」

毎年「国際音楽の日」に合わせて開くコンサートで、10月6日に千葉市民会館大ホールにて開催した。今年は「銀河鉄道の夜」をはじめ多くの文学作品を世に残した宮沢賢治に焦点をあてた。

賢治の作曲した歌曲、彼が収蔵していたレコードのクラシック音楽をもとに、これまでにない新たな舞台表現を創造した。

「第65回千葉市民音楽祭」

11月11日に千葉市民会館大ホールで開催した。公募により千葉市内で活動する合計30余の音楽愛好団体の参加を得て、出演者総数600名が、日頃の練習の成果を披露した。

「第13回千葉市民による第九特別演奏会」

12月9日に千葉県文化会館大ホールで開催した。公募による合唱団員134名と97名の千葉マリンオーケストラ及び公募団員による管弦楽団、千葉市に在住または関連のあるソリストおよび指揮者による公演であった。当日は練習の成果を発揮し、素晴らしい演奏会となった。



主催 (特非)千葉市音楽協会、**後援** 千葉市
協賛 (公財)JFE21世紀財団

千葉県少年少女囲碁大会

主催者の「千葉県少年少女囲碁連盟」は、千葉県内での少年少女の囲碁の普及・棋力向上活動を通して、子供達の健全な育成への支援を行っている。連盟の囲碁大会に今年も協賛した。

第39回を迎えた千葉県大会には総勢133名の小中学生が参加して熱のこもった戦いが繰り広げられた。東邦大学祭囲碁フェスタ、第39回千葉県少年少女囲碁大会には高梨聖健八段らプロ棋士が訪れ、大会を盛り上げた。



6月3日 第39回少年少女囲碁大会 千葉県大会
6月17日 第15回小中学校囲碁団体戦 千葉県予選
11月18日 東邦大学祭囲碁フェスタ2018
2019年3月3日 第37回千葉県少年少女囲碁大会

主催 千葉県少年少女囲碁連盟
後援 (公財)日本棋院、浦安市、文化庁、文部科学省、産経新聞社
協賛 (公財)JFE21世紀財団

倉敷音楽祭

「第33回倉敷音楽祭」は3月8～24日の間、倉敷市美観地区周辺を主な会場として開催された。平成21年より「地域間文化交流」として日本各地の特色のある音楽芸能の公演を実施している。

今回は「近畿」を特集地域とし、ゆかりのアーティストや芸能を招聘。大阪からはデビュー20周年を迎えた綾戸智恵が絶妙なトークと魂のヴォーカルを、また兵庫出身の女優・ピアニスト・歌手の松下奈緒コンサートなど、プロ公演も行った。

また、市民参加公演では、「日本縦断和太鼓コンサート」をはじめ、「倉敷アマチュアトップコンサート」など熱いステージが繰り上げられた。

その他、美観地区特設ステージでの町並みコンサート、倉敷市芸文館ホールでは、「華麗なるマジックシーへの誘い」等のイベントも行われ、倉敷の街が音楽と喝采の声で賑わった。



主催 倉敷市、山陽新聞社、(公財)倉敷市文化振興財団
共催 倉敷市教育委員会
協賛 (公財)JFE21世紀財団、ほか
後援 文化庁、岡山県、岡山県教育委員会、県内新聞社、ほか

白壁倉敷将棋フェスタ

2019年1月20日、倉敷市芸文館ホールにて「第3回白壁倉敷将棋フェスタ」が開催され協賛した。

倉敷市は大山康晴永世名人の出身地で、女流4大タイトル戦「倉敷藤花戦」などが行われる「将棋のまち」である。大山名人記念館などを中心に、日本古来の伝統芸能である将棋の継承・発展に力を入れている。

本大会には、団体戦(32チーム96名)、子ども将棋大会(低学年90名、高学年72名)、プロ棋士4名の指導対局(午前の部:43名、午後の部:48名)、懸賞詰将棋(子供向け64名、大人向け45名)が催された。子ども大会は参加希望者が多いため、今回より会場をホールへ変更した。

指導対局では、日本将棋連盟から有森浩三七段、菅井竜也七段(一昨年、羽生善治王位を下し「王位」を獲得)ら棋士4人をお招きし、約90人がプロの技を学んだ。



主催 倉敷市、(公財)倉敷市文化振興財団
協賛 (公財)JFE21世紀財団

鉄鋼に縁のある地域への貢献

福山ばら祭

5月19・20日の2日間、福山市の一大イベント「福山ばら祭2018」が、「福山に恋して未来に恋して！」をテーマに盛大に行われた。ばらにちなんだ多彩な企画が実施され、来場者数は過去最多に並ぶ85万人に達した。

この時期の福山は町中がばらに包まれるが、中でもばら公園や緑町公園のばらは必見である。夜はライトアップ&イルミネーションで多くの来場者を魅了した。

恒例のローズパレードには、福山市イメージキャラクター・ローラちゃんに扮した子供たちをはじめ、2700名を超える参加団体がばら祭りにちなんだ衣装や演出でパレードを盛り上げた。

その他、ばらのまち福山PR大使・フラワーアーティストのニコライ・バークマン氏の「新種ばら誕生記念セレモニー」、切りばらコンテスト、フラワーアレンジメント、ばらのステージ等各種行事が催された。今年も福山市の掲げるローズマインド（思いやり・優しさ・助け合いの心）に溢れるイベントとなった。



主催 福山祭委員会（会長：福山市長）

協賛 （公財）JFE21世紀財団 ほか

芸能大全～まつりの世界～（福山市）

2019年3月3日にふくやま芸術文化ホール（リーデンローズ）で開催された「第14回芸能大全～まつりの世界～」に協賛した。

芸能大全は、備後地域の伝統芸能の伝承・発掘を目的とした「まつりの世界」を開催することにより、地域の芸術文化振興を図っている。

第一部は、福山市で活動している和太鼓集団「備後蔵王太鼓」による一心鼓動で魅せるステージ。演目「久松城」では、「横打ち太鼓」で美しく勇壮な城姿を表現した。

他には、神石高原町より「神代子供神楽」、尾道市からは「海老区神楽保存会」等、広範囲な地域の伝統芸能が披露された。

第二部では、ゲストとして招かれた安芸高田市「吉田神楽団」が、「滝夜叉姫」をスピード感溢れる舞と迫力ある演技で会場を魅了した。

今年は前年を上回る集客となり、常時満席であった。来場者からは「迫力のパフォーマンスに圧倒された。」「素晴らしかった。」など沢山の感想が寄せられた。



主催 （公財）ふくやま芸術文化振興財団、ふくやま芸術文化ホール

協賛 （公財）JFE21世紀財団

はんだふれあい産業まつり

11月10、11日に半田市で「2018はんだふれあい産業まつり」が開催された。盛りだくさんのイベントと半田市の産業を紹介するこのお祭りは、例年通りJFEスチール(株)知多製造所および半田運動公園を会場として開催され、43,000人の来場者で賑わった。

開会宣言の後オープニングセレモニーとして3500個の餅投げが行われた。ステージイベントでは元中日・山本昌氏のトークショーのほか、各種パフォーマンスが行われた。大縄跳び大会には地元中学生など12チームが参加した。その他、工場見学、消防体験、はしご車体験、パトカーとの記念撮影、ミニ鉄道など、大人も子供も楽しむことができた。また、優良農畜産物即売会、乳搾りモギ体験など多種の催しがあった。



- 主催** はんだふれあい産業まつり実行委員会
共催 半田市、半田商工会議所、あいち知多農業共同組合、
JFEスチール(株)知多製造所
協賛 (公財)JFE21世紀財団 ほか

三重県高等学校ロボット競技大会

三重県高等学校工業教育研究会が主催する2つのロボット競技大会および工業教員の技術向上の研修事業に協賛。高校生の製作するロボットの技術向上は目覚ましく、競技は年々習熟度が増している。

8月26日「第23回 相撲ロボット競技大会 (三重県工業高校生フェア)」
11月4日「三重県高等学校ロボット競技大会」

- 主催** 三重県教育委員会、三重県高等学校工業教育研究会
後援 JFEエンジニアリング(株)津製作所
協賛 (公財)JFE21世紀財団、ほか



トンボはドコまで飛ぶかフォーラム (横浜市)

今年も京浜地区の「トンボはドコまで飛ぶかフォーラム」に協賛した。このフォーラムは京浜臨海部の緑地の質向上と生物多様性保全に貢献することを目的として、企業、市民、専門家、行政がそれぞれの立場で参加し16年間にわたりトンボの飛来調査を始め、ユニークな活動を継続している。

6月～10月実施の「トンボとり大作戦2018」では、臨海部、内陸部・南部の17地点、延べ246人の参加者がトンボの捕獲・標識に取り組み、トンボの生息状況の変化を示す貴重なデータを集めた。参加者は年々増加している。



- 主催** トンボはドコまで飛ぶかフォーラム
協賛 (公財)JFE21世紀財団

鉄鋼に縁のある地域への貢献

嘉興市浪漫桜祭り

中国浙江省嘉興市には古くから日系企業が進出し、日中友好のシンボルとして工業団地の周辺に積極的に桜の植樹を進めて来た。今では毎年春の訪れとともに、嘉興市民の目を楽しませてくれるようになった。

嘉興市政府と日系企業は毎年3月の桜の開花に合わせて桜祭りを開催することとして、今回第10回を迎えた。

例年1週間の開催期間だったが、今年は3月30日、1日の開催となった。会場も企業の敷地から、市内の長織塘公園へ変更。開幕式には上海総領事館から亀井首席領事、開発区トップの盛付祥主任らがともに出席挨拶を行い、昨年同様、盛大な開幕式となった。

実行委員長の挨拶や植樹式の後、市民や企業のグループによる歌や踊りの演目が披露され、会場は大いに盛り上がった。



主催 嘉興経済技術開発区政府、嘉興国際商务区緑化委員会弁公室
共催 第10回崗山路・六里長涇浪漫桜花節実行委員会
協力 嘉興日系会
協賛 (公財)JFE21世紀財団

「海外子女文芸作品コンクール」協賛と文集寄贈

現在、海外に在住する日本人の子どもは約84万人と推定され、日本人学校や補習授業校、通信教育など様々な形で日本及び日本語の勉強に取り組んでいる。

(公財)海外子女教育振興財団は、海外の日本人学校、現地校で学ぶ小中学生を対象に、日本語に対する興味・関心を持続させ、国語力を伸長させると同時に、彼らの貴重な体験を発表する機会として、「海外子女文芸作品コンクール」を毎年実施している。

今年は、応募総数39,369点の中から、作文・詩・短歌・俳句の4部門で496点を選び表彰した。当財団からも各部門1点に「JFE21世紀財団賞」を授与している。

また、その中の優秀作品197点を掲載した文集である「第39回地球に学ぶ」を今年度も鉄鋼に縁のある地域の小・中学校673校、86図書館等に総計850冊寄贈した。



主催 (公財)海外子女教育振興財団
後援 外務省、文部科学省、日本放送協会
協賛 (公財)JFE21世紀財団、東京海上日動火災保険(株)、日販アイ・ピー・エス(株)、(一財)日本児童教育振興財団、(株)読売新聞東京本社、クラーク記念国際高等学校

Ⅲ. 出版事業

◇ 「鉄鋼工学 改訂版《プロセス編》・《材料編》」

当財団は2006年度に大学研究者や工学系学生に鉄鋼への興味・関心を持って頂くことを目的として、「鉄鋼工学《プロセス編》・《材料編》」を刊行したが、2018年度に12年振りの改訂作業を行い「改訂版」として刊行した。

初版は大学教授4名の監修の下、JFE グループの鉄鋼関係の研究者・技術者7名が執筆したが、今回は JFE スチールのスチール研究所に設けられた編集委員会の監修の下、スチール研究所の研究者が、製鉄・製鋼・圧延加工・厚鋼板・薄鋼板・表面処理鋼板の6分野を分担して執筆した。

制作に当たっては、大学の専門課程での講義や学習会で活用されることも想定して、鉄鋼の製造プロセスと材料の基本的な工学理論を最新の考え方に基づいて記述するとともに、大学の研究者や学生の興味・関心を醸成するような最新の鉄鋼技術・研究を積極的に取り上げて紹介することとした。技術や設備を可能な限り、図・写真を多用してヴィジュアルに紹介することにより、最新の鉄鋼技術をわかりやすく理解できる教材になったものと自負している。

改訂版を1月に刊行して、まず鉄鋼工学に関係する各大学の図書館に各1部と、全国の材料系研究者にも寄贈した。今後も希望する研究者・学生に寄贈を継続していく。



| 2018年度寄贈先 | 合計 | 大学等 | 鉄鋼研究者 |
|-----------|-----|-----|-------|
| 寄贈部数 | 976 | 168 | 808 |

◇ 「たたらー日本古来の製鉄（増補改訂版）」

当財団は2004年に中高生を含めて様々な方々に「鉄」への関心を持って頂く目的で、「たたらー日本古来の製鉄」を刊行した。

東京大学が所蔵する絵巻「先大津阿川村山砂鉄洗取之図」には、江戸末期山口県に実在した「白須山たたら」を中心に、現在では姿を消した「たたら製鉄」の全容が、全長27mの絵巻に克明に描かれている。

本書は、この絵巻をビジュアルに書籍化したもので、絵巻の流れに沿って、たたら製鉄の原料である砂鉄の採取、砂鉄や木炭の陸上・海上の運搬、当時の製鉄所である「山内」の各種製鉄設備等を順次解説した。後半部では絵巻の解説を更に深めるために、鳥根県雲南市に現存する菅谷たたら等の製鉄遺跡の研究によって解明されつつあるたたら製鉄の技術について、オリジナルのイラスト等も加えて詳細な解説を行った。

2017年3月に12年振りに増補改訂版を刊行した。増補改訂版では、絵巻全巻の画像を最新のデジタル画像に替え、初版で割愛した部分も含めて絵巻の全巻を解説した。初版以上に絵巻を楽しんで頂けるものと期待している。

2018年度も、この書籍を希望者に寄贈した。



◇ Web コンテンツ 「大学教材ー鉄鋼工学」 「大学教材ー鉄鋼プロセス工学入門」

鉄鋼工学の基礎理論から、鉄鋼メーカーの最新の技術や研究までを取扱い、大学での講義等に活用できる大学教材であり、「鉄鋼プロセス工学入門」は1995年、「鉄鋼工学」は2006年に制作した。

いずれも財団 HP から PDF 形式で無償ダウンロードが可能であり、現在でも多数の方に利用されている。



財務データ (2018年4月1日~2019年3月31日)

貸借対照表

(単位：千円)

| 科 目 | 公益目的事業会計 | 法人会計 | 合 計 |
|-------------------|-----------|---------|-----------|
| I 資産の部 | | | |
| 1 流動資産 | | | |
| 現金預金合計 | 0 | 99,692 | 99,692 |
| 流動資産合計 | 0 | 99,692 | 99,692 |
| 2 固定資産 | | | |
| 普通預金 | 6,100 | 0 | 6,100 |
| 投資有価証券 | 2,269,562 | 0 | 2,269,562 |
| 基本財産合計 | 2,275,662 | 0 | 2,275,662 |
| 管理業務運営資産 | 0 | 578,179 | 578,179 |
| 大学研究助成維持拡充積立金 | 61,000 | 0 | 61,000 |
| 特定資産合計 | 61,000 | 578,179 | 639,179 |
| 固定資産合計 | 2,336,662 | 578,179 | 2,914,841 |
| 資産合計 | 2,336,662 | 677,871 | 3,014,532 |
| II 負債の部 | | | |
| 未払費用 | 0 | 1,175 | 1,175 |
| 預り金 | 0 | 2 | 2 |
| 流動負債合計 | 0 | 1,177 | 1,177 |
| 負債合計 | 0 | 1,177 | 1,177 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1 一般正味財産 | 2,336,662 | 676,694 | 3,013,355 |
| (うち基本財産への充当額) | 2,275,662 | 0 | 2,275,662 |
| (うち特定資産への充当額) | 61,000 | 578,179 | 639,179 |
| 正味財産合計 | 2,336,662 | 676,694 | 3,013,355 |
| 負債及び正味財産合計 | 2,336,662 | 677,871 | 3,014,532 |

正味財産増減計算書

(単位：千円)

| 科 目 | 公益目的事業会計 | | | 法人会計 (管理費) | 合 計 |
|---------------------|-----------|---------|-----------|---------------|-----------|
| | 大学研究助成等事業 | 文化振興事業 | 小 計 | | |
| I 一般正味財産増減の部 | | | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | | |
| 基本財産運用益 | 68,837 | 17,209 | 86,047 | 0 | 86,047 |
| 特定資産運用益 | 0 | 0 | 0 | 23,674 | 23,674 |
| 雑収益 | 0 | 0 | 0 | 69 | 69 |
| 経常収益計 | 68,837 | 17,209 | 86,047 | 23,743 | 109,790 |
| (2) 経常費用 | | | | | |
| 支払寄付金 | 68,500 | 17,700 | 86,200 | 0 | 86,200 |
| 給料手当・福利厚生費 | 8,517 | 2,129 | 10,646 | 2,661 | 13,307 |
| その他の経常費用 | 36,906 | 2,483 | 39,389 | 4,773 | 44,162 |
| 経常費用計 | 113,922 | 22,313 | 136,235 | 7,434 | 143,669 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | △45,085 | △5,103 | △50,188 | 16,309 | △33,879 |
| 評価損益等計 | 146,766 | 36,692 | 183,458 | 65,791 | 249,249 |
| 当期経常増減額 | 101,681 | 31,588 | 133,269 | 82,100 | 215,369 |
| 2. 経常外増減の部 | | | | | |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 他会計振替額 | 28,551 | 7,138 | 35,688 | △35,688 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | 130,232 | 38,726 | 168,958 | 46,412 | 215,369 |
| 一般正味財産期首残高 | 1,743,009 | 424,695 | 2,167,704 | 630,282 | 2,797,986 |
| 一般正味財産期末残高 | 1,873,241 | 463,421 | 2,336,662 | 676,694 | 3,013,355 |
| II 正味財産期末残高 | 1,873,241 | 463,421 | 2,336,662 | 676,694 | 3,013,355 |

評議員・役員名簿

| | | |
|------|-------|-------------------------|
| 評議員 | 浅井 滋生 | 名古屋大学 名誉教授 |
| | 井口 学 | 北海道大学 名誉教授 |
| | 梅村 坦 | 中央大学 名誉教授 |
| | 北野 嘉久 | JFE スチール(株) 代表取締役社長 |
| | 林田 英治 | JFE ホールディングス(株) 取締役 |
| | 前川 弘幸 | 川崎汽船(株) 元社長 |
| | 三島 良直 | 東京工業大学 名誉教授 |
| 理事長 | 柿木 厚司 | JFE ホールディングス(株) 代表取締役社長 |
| 専務理事 | 寺畑 雅史 | JFE ホールディングス(株) 執行役員副社長 |
| 理事 | 岡本 罔衛 | 日本生命保険(株) 相談役 |
| | 小林 栄三 | 伊藤忠商事(株) 特別理事 |
| | 下村 節宏 | 三菱電機(株) 特別顧問 |
| | 平田 好則 | 大阪大学 名誉教授 |
| | 福島 久哲 | 九州大学 名誉教授 |
| | 古原 忠 | 東北大学 教授 |
| | 前田 正史 | 京都先端科学大学 学長 |
| 監事 | 田中 利弘 | JFE ホールディングス(株) 専務執行役員 |
| | 谷上 和範 | 公認会計士 |

(2019年4月1日現在)



2018年度年次報告書（事業報告）

公益財団法人 JFE21世紀財団
東京都千代田区内幸町 2 - 2 - 3 日比谷国際ビル28階
〒100-0011
T E L 代表 03(3597)4652
F A X 03(3597)4627
E-mail zai21c@jfe-21st-cf.or.jp
U R L <http://www.jfe-21st-cf.or.jp>
